



▲ALTのカルロスさんとグループごとに、遊びを通して触れあひながら英語を学ぶ児童たち

平成28年度

施政方針

2月16日、風間康静市長が第419回白石市議会定例会で施政方針演説を行い、平成28年度の市政運営の基本的な考え方を明らかにしました。

最上位計画「第5次白石市総合計画」、地方創生総合戦略「白石市まち・ひと・しごと創生『総合戦略』」を着実に推進！ その中でも、子育て支援、学校教育の充実、定住促進への重点施策の充実に努めます。



▲議場で市政運営の方針を述べる風間市長

「人暮らし・環境が活きる交流拠点都市」を形成！ 活力と賑わいを創出

東日本大震災から間もなく5年が経過。「割増商品券」の発行をはじめ、「白石市住宅災害復旧等補助金事業」などを引き続き実施し、さらなる市民生活の発展と地域経済の活性化を図ります。

放射能対策は、「白石市除染実施計画」に基づき、空間放射線量の低減化を図ってきました。平成27年度は、除染作業を実施した民有地の事後モニタリングを実施し、除染効果が持続されていることを確認。今後は国の除染などの方針に注視し、適切に対応します。

また、焼却灰の収集・保管は、平成27年度、放射能濃度測定の方法や指定方法の変更に伴い、仮置き場のなかった白石、白川、大平地区の自宅に保管されていた焼却灰をすべて収集。本年度は、すでに収集保管されている地区の再調査を実施し、その結果に基づき対応します。

さらに、空間放射線量の測定と食品などの放射能濃度の測定は継続し、市民生活の安心・安全を確保するとともに風評被害

を払拭するよう努めます。加えて、小十郎の郷に設置した「非破壊式放射能測定器」は、タケノコをはじめ、農林産物の安全確認が容易にできるよう、検査態勢に万全を期します。

「第5次総合計画」6年目

引き続き総合計画に掲げた施策を通し、「共汗・共学・共生」を基本理念とした市民総参画のまちづくりを推進。次の世代に誇りを引き継ぐことができる「ふるさと白石」の実現を目指します。

また、平成26年11月、急速な少子高齢化、地方の人口減少と東京圏への人口集中を是正するため、「まち・ひと・しごと創生法」が制定されました。

本市においても、少子化と人口減少が止まらず、「日本創成会議」の発表では、存続が危ぶまれる「消滅可能性都市」の一つとされています。

そこで、人口・経済・地域社会などの課題解決につなげるための指針として、平成27年10月

末に白石版地方創生総合戦略である「白石市まち・ひと・しごと創生『人口ビジョン』『総合戦略』」を策定しました。本市の「地方創生総合戦略」は、最上位計画である総合計画を着実に推進するとともに、人口減少の抑制による「消滅可能性都市」からの脱却を目標としています。今後平成31年度まで、「出生率」の向上と「社会減」抑制のための各種施策を積極的に実施していきます。

加えて平成27年12月、本市と柴田町、仙台大学が、「2020年東京五輪・パラリンピック」事前キャンプなどを連携して招致しようという合意。今後、協議会を設立し、官民一体で招致に取り組みます。

さらに、NHK大河ドラマ「真田丸」の放送がスタート。本市は真田家ゆかりの地で、多くの歴史資源があります。これを契機に、真田丸企画展の開催やミュージカルを企画するなど、白石の名が全国に響きわたるよう全力で努めます。

これからも、さまざまな手段で情報発信に努めながら、市民の皆さんとともに「人暮らし・環境が活きる交流拠点都市」を形成することで交流人口を拡大し、地域の活力と賑わいを創出します。

Target1

豊かな感性と人間性を育み 伝統文化を継承するまち

学校教育の充実、確かな学力向上のため、学校ICT環境機器を活用した学習への取り組みを推進するとともに、すべての小中学校で1学級35人以下の少人数学級を実施し、子どもたち一人ひとりにきめ細かな指導を行い、教育効果を高めます。また、幼稚園、小中学校に在籍する発達障がいを含む、障がいのある子どもたちに生活介助や学習支援を行うための「特別支援教育支援員」を増員し、引き続き支援を必要とする子どもたちにきめ細やかな支援を行います。

さらに、中学校にALT（外国語指導助手）を配置し行ってきた英語教育を本年度から拡充します。新たに小学校にALTを配置し、保育園や幼稚園にも派遣して、幼児期から英語に触れ親しむ活動を推進します。加えて、市独自に全児童を対象とした学力テストを引き続き行うとともに、「学び支援コーナーネット事業」による自主学習の習慣化を確立し、学力の全体的な底上げを図ります。

市内小中学校の統廃合は、小中学校の在り方検討委員会からの答申を踏まえた適正化基準に基づき、保護者や地域の方々に十分な説明を行い、理解を得ながら進めます。

生涯学習の推進は、生涯学習フェスティバルの開催やふるさとスポーツ祭などの各種スポーツ大会を通して、市民の生涯学習意識の醸成に努めるとともに、碧水園、ホワイトキューブなどの文化・体育施設での事業やイベントを通して、生涯学習の推進を図ります。

歴史文化の継承と創造は、白石城での白石城茶会や白石城歴史探訪ミュージアムでの企画展、武家屋敷や検断屋敷での伝統行事の再現、碧水園での能公演などを通して、白石の魅力を感じる場を創出します。

また、白石城やすまいるひろば、沢端川などを活用した歴史情緒を体感できる城下町回遊ルート、特に沢端川沿いの桜並木や梅花藻のライトアップを行うとともに、「沢端川の環境を守り鯉を育てる会」などと連携し

●語学指導事業（事業費：3,049万5千円）

文部科学省では、小学5年生から実施している「外国語活動」の開始時期を小学3年生に前倒しし、小学5・6年生は英語を教科に格上げする学習指導要領の全面改正を検討しています。

そこで、英語教室を拡充するため、ALTを増員し小学校に配置。保育園や幼稚園にも派遣して、幼児期から英語に慣れ親しむ活動を推進し、英語教育の充実を図ります。

た沢端川周辺の環境保全と観光振興を図り、交流人口の拡大に努めます。

加えて、製造を終えた白石和紙は、歴史ある貴重な文化を後世へ引き継ぐため、製造方法の記録化を進めるとともに、白石和紙を残したいという強い思いで、原料の栽培から和紙すきまでの工程を自ら行い、自力生産に取り組んでいる市民グループへの支援を継続します。